

さいたま市文化財時報

かや 榎りぼーと

第27号

指定文化財の紹介 — 五輪塔・宝篋印塔 —

文化財に指定されている石造物の紹介も今号で4回目を迎えます。今回は、供養塔・墓塔として建てられた五輪塔と宝篋印塔を紹介いたします。

◆ 五輪塔 ◆

一般に、上から空輪（宝珠形）、風輪（半月形）、火輪（三角）、水輪（円）、地輪（方形）の五つの部分からなります。本来は、仏教の一派である密教の世界観（古代インドの五大思想）を日本独自の形状で表現したものでしたが、没後の供養塔や墓石として用いられるようになりました。平安時代後半から室町時代にかけて全国的に造立され、現在に至ります。

◇一石五輪塔（市指定有形文化財：考古資料）

岩槻区・常源寺にある「一石五輪塔」です。明応3年（1494）の紀年銘があり、市内で現存する五輪塔としては一番古いものです。高さ34cm、柱状の緑泥片岩を加工したもので、全体を一つの石から彫り出しています。このような一つの石から彫り出した五輪塔は、室町時代から江戸時代初期に現れますが、板石塔婆の材料として使用されることが主だった緑泥片岩をこのように使用した例は、埼玉県内では今の所、これ以外に見ることはできません。

地輪に彫られた銘文から、良秀という人物が、死後の成仏を願って造立したものであることがわかります。



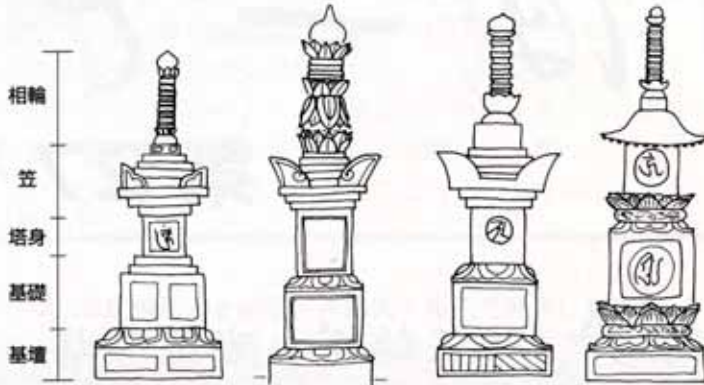
◇東光院五輪塔（市指定有形文化財：考古資料）

西区・東光院にある2基の「五輪塔」です。2基とも永禄13年（1570）の紀年銘がある高さ71cmの双式の五輪塔で、それぞれに「逆修」と人名が彫られています。恐らく、この地の名主層の夫婦が、仏に帰依し、死後の世界の安楽を願って造立したものであると思われます。

空輪・風輪は、石質の違いから後世に補ったものと思われるのですが、中世の五輪塔が完全な形で残っているものは少なく、また、板石塔婆が普及していたこの地域で五輪塔が造立されたことわかる貴重な資料となっています。

◆ 宝篋印塔 ◆

本来、宝篋印陀羅尼經を納める塔のことで、この經を唱えれば、この世で苦しんでいる人々、貧しい人々を救うことができ、死後は極楽に生まれ変われると説かれています。上から相輪、笠、塔身、基礎、基壇からなり、塔身の四面には、仏を梵字で刻んでいます。五輪塔と同じように中世から造立されていますが、近世になって塔の形式を変え、墓標や供養塔として造立されるようになりました。



◀各時期の宝篋印塔の形状（概念図）
左から中世期（関東型）、江戸初期、
同中期、同後期
（『石の文化財—浦和の石造物—』より）

◇篠原家の宝篋印塔（市指定有形文化財：歴史資料）

緑区東浦和5丁目の墓地にある江戸時代後期、文化8年（1811）の紀年銘がある宝篋印塔です。塔本体の高さは3.8mに及び、基礎に2種類の造立趣旨が刻まれています。それによると、願主が、法華經二千部の読経と西国・四国・坂東・秩父の霊場を巡拝し、その供養として造立したこと、吉祥寺（緑区）の住職を務めた亮田が、宝篋印陀羅尼經を信心し、その經を納めるための塔を造立する願主に感心し、宝篋印陀羅尼經の写経と塔に刻む5つの梵字を揮毫したことが刻まれています。実際、塔身の内部には桐箱が納められ、その中に宝篋印陀羅尼經（紙本墨書と銅版打出し）をはじめ、奉納戒名、曼荼羅、仏舍利土砂などが納められていることが確認されています。



◆ 市指定史跡にみられる「五輪塔」・「宝篋印塔」 ◆

有形文化財に指定されている上記の五輪塔・宝篋印塔のほか、史跡に指定された墓碑などに五輪塔・宝篋印塔を見ることができます。



▲太田氏寶篋印塔（岩槻区・芳林寺）
討死した岩槻城主・太田氏資の供養塔として、永禄11年（1568）に建てられた高さ114cmの宝篋印塔です。



▲高力清長・徳松丸・竹の局の墓及び供養塔（岩槻区・浄安寺）
徳川家康の6男・松平忠輝の側室竹の局とその子徳松丸の供養塔として宝篋印塔と五輪塔が造立されています。二人とも寛永9年（1632）に没しました。



▲春日氏一族の墓（桜区・大泉院）

中世以来、足利・上杉・太田・後北条氏に仕えた春日氏4代の墓です。右は大泉院の開基・行光の五輪塔です。



▲大岡家の墓（岩槻区・龍門寺）

岩槻藩主・大岡忠光（1712-1760）の墓として築かれた巨大な五輪塔です。火輪は、関東大震災により被災し後補されています。



▲岩槻藩主阿部家の墓（岩槻区・浄国寺）▲

岩槻藩主・阿部家初代正次・3代定高及び定高に殉じた家臣の墓（五輪塔：写真左）と阿部定高の母の供養塔（宝篋印塔：写真右）です。定高（中央）及び家臣の墓（左）は万治2年（1659）に、正次の墓（右）は寛政8年（1796）に正次の150年忌に造立したもので、定高の五輪塔を参考に作製されたと考えられています。



▲旗本青木高頼一族の墓及び宝篋印塔（見沼区・正法院）▲

旗本青木氏は、天正12年（1584）から江戸時代を通じ「両番」（書院番・御小姓組）として幕府に仕えた一族です。初代高頼から10代鉄之助まで一族33基の墓石（高頼・2代正頼など5基が宝篋印塔-江戸時代初期：写真左）と寛延2年（1749）に造立した宝篋印塔（写真右）があります。



※これらの文化財は、常時公開されているものばかりではありません。マナーを守り、文化財の所有者や管理者、近所の方々、他の見学者や参拝者の迷惑とならないよう、お願いします。

※これまで石造物を特集した、「樞りぼーと」11号（庚申塔）・15号（板石塔婆）・23号（石仏・諸供養塔）は、さいたま市のWebページ（さいたま市の文化財公式ページ）でご覧いただけます。

TOPICS

- 秋葉ささら獅子舞保存会が、財団法人沖永文化振興財団の助成団体に選ばれました。

市指定無形民俗文化財「秋葉ささら獅子舞」の保存団体である「秋葉ささら獅子舞保存会」は、地域の民俗芸能を支援する、沖永文化振興財団から助成を受けました。

この助成と市の補助により、花笠重箱を新調しました。新しい重箱は軽量化を図り、暑い夏の奉納を考慮して、幕の幅も半分にしました。来年の祭礼では、新しいささらっ子の姿が見られることでしょう。



▲新調された花笠重箱

- 「さいたま市最新出土品展」を市内4箇所で開催しました。

市内各所で行った発掘調査の成果を、写真や実際の出土遺物で紹介する「最新出土品展」を9月15日から11月18日まで巡回展示しました。今年は市立博物館（遺跡発掘調査成果発表会・ギャラリーートーク）、大宮西口DOMショッピングセンター、岩槻郷土資料館に加え、プラザウエストでも開催し、多くの市民の方々にご覧いただきました。

次号では最近の発掘調査について特集しますので、ご期待ください。



▲展示風景（プラザウエスト）

お知らせ

市内各所で開催されるお祭などに、指定文化財も参加しますので、ぜひお出かけください。なお、天候などにより日程が変更することもありますので、詳しくはさいたま市のWebページをご覧ください。当課までお問合せください。

期日	名称	時間	会場	内容等
1月13日(日)	さいたま市消防出初式	10時～	浦和競馬場 (南区大谷場1-8-42)	「駒形の祭ばやし」による獅子舞がお正月の勢田気を盛り上げます。また「木遣歌」とともに薦組が華麗なはしご乗りを披露します。
3月16日(日)	田島の獅子舞	16時～	田島氷川社 (桜区田島4-12-1)	3頭からなる獅子舞が優美に舞います。春の大祭は多くの人で賑わいます。

- ◆1月26日は「文化財防火デー」です。

昭和24年1月26日の法隆寺金堂壁画の焼損をきっかけに、昭和25年に文化財保護法が制定されました。昭和30年には、1月26日を「文化財防火デー」と定め、貴重な文化財を火災や震災などから守るために、毎年、全国的に文化財防火運動が行われます。市内でも、この日を中心に各区の消防署主催で、文化財所有者、地元消防団、近隣自治会の協力のもと、防災訓練等を実施します。



▶今年の初期消火訓練の様子(南区・守光院)

さいたま市文化財時報

樞りぼーと

第27号

平成19年12月28日

【編集・発行】

さいたま市教育委員会 生涯学習部 文化財保護課
☎330-9588 さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号
☎048-829-1723 048-829-1989
<http://www.city.saitama.jp/>